

特定健康診査の受診状況を公表します

特定健康診査とは？

特定健康診査は、平成20年度から始まったメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した、生活習慣病の予防を目的とした健診です。

日本人の死因のうち約6割を占めるのが、生活習慣病といわれています。中でも、脳血管疾患や心疾患といった、食べ過ぎや運動不足などの生活習慣により進行する動脈硬化が大きく関わっている疾患で亡くなる人は、3割を占めています。（厚生労働省統計より）

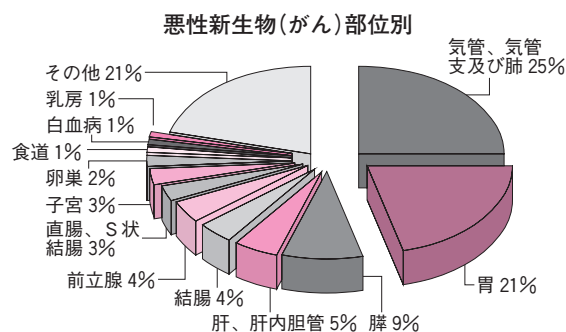
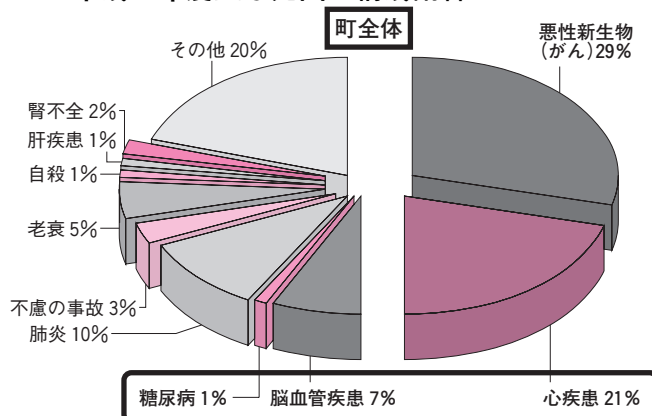
高血圧、糖尿病といった生活習慣病の予防や、脳梗塞や心筋梗塞、慢性腎臓病への重症化予防のために特定健康診査を受診することは有効です。ところが、特定健康診査の受診率は、まだまだ低いのが現状です。そこで今回、養老町の国民健康保険加入者の状況をお知らせします。皆さんの健康づくりや医療費・国民健康保険税の抑制につなげるため、『特定健診受診率100%』を目指しましょう。

①生活習慣病はこわい存在（気づかぬうちに、がんや心筋梗塞、脳卒中などの深刻な病気に）

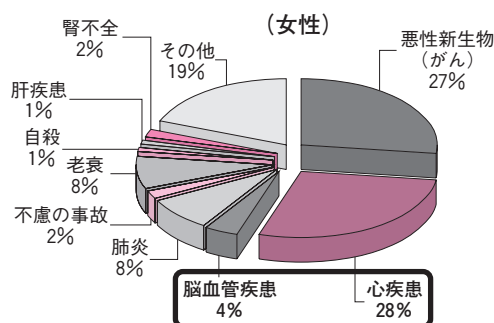
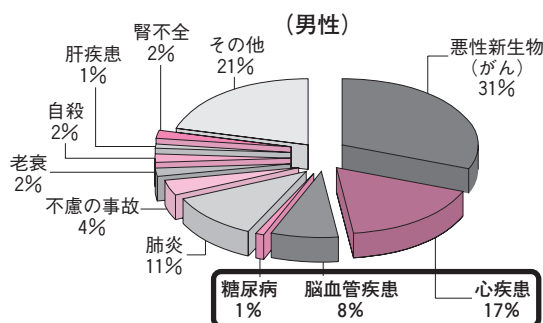
平成25年度の主な死因は、町全体、男女ともに国と同様、悪性新生物（がん）が29%で最も多くなっています。また、悪性新生物以外の生活習慣病では、心疾患（21%）、脳血管疾患（7%）、糖尿病（1%）の生活習慣病関連を合計すると、同じ29%となっています。

これらの命にかかわる病気は、お腹の周りの内臓に脂肪が蓄積したメタボリックシンドローム（内臓脂肪型肥満）に糖尿病、高血圧症、脂質異常症といった病気が複数重なることにより、動脈硬化を進行させ、危険性が高まります。

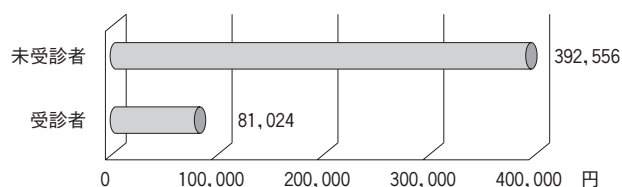
平成25年度主な死因の構成割合



男女別にみた主な死因の構成割合



②健診を受けている人と受けていない人の1人当たり医療費



左のグラフは、平成26年度に健診を受けている人と受けていない人の医療費を比較したものです。受けている人の医療費は、受けていない人より大幅に低くなっています。これは早期発見・早期治療により医療費が抑えられたことが要因であると考えられます。